

2EC 情報通信基礎実験 「回路網の実験」 レポートチェック用紙 (2015.4.6 版)

※レポートの表紙の次 (1 ページ目の前) にこの用紙を綴じて提出すること (□□は担当者チェック欄)

- 表紙 (実験日 班名 (班番号) 共同実験者氏名 (フルネーム) など)
- 全体的な書式
- すべての図や表に図番号, 図題や表番号, 表題をつける
- 1 実験の目的
- 2 実験日の天候状態 (実験日 天候 気温 湿度)
- 3 使用機器 (導線類は省略とする)
- 機器の名称 メーカー名 型番 定格 (測定範囲やレンジ, 測定精度など) 台数
- 4 実験結果
- 4.1 実験 1 実験 1 の題名
- 接続図 (定規を使用して書くこと)
- 図番号 (レポート内での通し番号 (図 1, 図 2...) で) 図題 (図の下側に書く)
- 測定結果
- 表番号 (レポート内での通し番号 (表 1, 表 2...) で) 表題 (表の上側に書く)
- 表 (V_1, A_1, V_2, A_2 の測定値 単位, 有効桁数に注意 テキスト巻末「表の書き方」参照)
- A, B, C, D の値 式 計算値 (単位のつくものは単位に注意. 特に電流の単位[A]か[mA]か)
- 結論 式(8)と実験結果との比較 (誤差率が 2%以内であることを確認する)
- 4.2 実験 2 実験 2 の題名
- 接続図 (定規を使用して書くこと)
- 図番号 図題 (正確には(a),(b)に副題を付けるが, ここでは省略可)
- 測定結果
- 表番号 表題 (接続図に対応させ(a),(b)の副題で 2 つの表に 1 つの表題をつけてよい)
- 表 (V, A の測定値, (A の値)/(V の値)の計算値 単位, 有効桁数に注意) (a), (b)の 2 つ
- 結論 式(7)と実験結果との比較
- 4.3 実験 3 実験 3 の題名
- 接続図 (定規を使用して書くこと)
- 図番号 図題
- 測定結果
- 図 7 の接続時の R_0 および E_0 の測定結果 $I = E_0 / (R_0 + R_L)$ の計算結果 (単位, 有効桁数に注意)
- 図 8 の接続時の V_2 および A の測定値 (単位, 有効桁数に注意)
- $R_L I = R_L E_0 / (R_0 + R_L)$ と V_2 の値との比較 I と A の測定値との比較
- 結論
- 4.4 実験 4 実験 4 の題名
- 接続図 (前の実験で示してあれば, 同じ接続であることを述べるだけでよい)
- 図番号 図題
- 表番号 表題
- 表 ($R_L, V(V_2$ の指示値), $I(A$ の指示値), $P = V \times I$ [W]または[mW] 単位, 有効桁数に注意)
- 片対数グラフ (R_L 対 V, I, P 特性 P_{max} の点から縦・横軸に補助線 (破線) を引く 単位等
- 図番号 図題 雲形定規で曲線を描く テキスト巻末「グラフの描き方」参照)
- 5 検討事項
- (1) の図 9(a) の回路の場合と, (5) は発展問題 (省略可) とする. 問題文, 図, 式も書くこと
- 6 考察
- 実験結果から読み取れること, 実験を通して得られた結論などを述べよ. 文献の丸写しは不可
- 参考文献 (Web 引用不可) ページ番号の記入 その他